

(3) 青森県立八戸東高等学校

「短命県返上！！～高校生が作る
健康あおもり～」



令和2年度高校生模擬議会

青森県立八戸東高等学校

令和3年2月3日(水)

1

短命県返上！！

～高校生が作る健康あおもり～

青森県立八戸東高等学校

亀谷 健太郎 井出沙也加 白石穂花 前田 南子
 大久保あかり 河村 早紀 藤 碧衣 田村日翔里 宮崎 明莉

私たちは、青森県の大きな課題である短命県を返上するための対策を考えました。

2



今日の流れ

- (1) 青森の健康課題
- (2) どう変えるか？
- (3) 対策
⇒G1グランプリ
⇒あおへる
- (4) まとめ





3



青森県の健康課題



はじめに、青森県の健康課題についてです。(3)

4

1. 青森県民は塩分取りすぎ！！

塩分摂取量(1日あたり)	
目標値	青森
男性…7.5 g 未満	男性…11.3 g
女性…6.5 g 未満	女性…9.7 g

厚生労働省「日本人の食事摂取基準」
 厚生労働省平成30年「国民健康、栄養調査」

1つ目は、青森県民が塩分を取りすぎているという問題です。

青森県民の1日当たりの塩分摂取量は、目標値より男性は3.8g、女性は3.2g多いです。(4)


このことから、青森県民は男女共に塩分摂取量が非常に多いことが分かります。

5


すでにある青森県の取り組み

<だし活>
だし活とは、だしのうま味を活用して減塩を推進する活動。


だし活でこんないいこと



おいしい料理
ができる!



素材の味を
引き立てる!





だしから揚げ出た
栄養もとれる!

6

手軽に使えるだし商品「できるだし」

青森県産品を使用し、一定の基準を満たしただし商品「できるだし」シリーズ。「できる」には、「手軽にできる」、「塩分コントロールできる」、「うま味でおいしくできる」などの意味が込められています。

基準	青森県内で生産された農林水産物の合計重量が、原材料のうちで最も高い割合を占めること。
対象となるだし商品	だし素材そのもの・だし素材を削る、粉砕する、パック詰めするなどの加工をした、だしとして使用される商品



そこで、青森県は「だし活」という取組を推進してきました。「だし活」とは、だしのうま味を活用して減塩を推進、PRをする活動です。（5）

「だし活」に関する商品として、手軽に使えるだし商品「できるだし」があります。これらは、青森県産品を使用し、一定の基準を満たした、だし商品のシリーズになっています。（6）

このように青森県では、既に県民の塩分摂取量を減らすための取組が行われていますが、依然として県民の塩分摂取量は高いレベルにあると思われます。

7

2. 青森県民は運動不足！！

小中学生の肥満率

(表7)令和元年度年齢別肥満傾向児の出現率 (単位: %)

学年	性別	年齢	全国	青森	全国	青森	全国	青森
小1		6	4.5	8.1	4.7	8.5	4.3	7.6
小2		7	6.0	9.1	6.4	9.6	5.5	8.6
小3		8	7.5	12.3	8.2	13.9	6.9	11.9
小4		9	9.2	13.6	10.6	15.8	7.9	11.3
小5		10	9.6	13.6	10.6	15.6	8.5	11.4
小6		11	10.0	13.6	11.1	15.4	8.8	11.8
中1		12	9.9	13.1	11.2	14.9	8.3	11.9
中2		13	8.8	12.0	9.6	12.1	7.9	11.3
中3		14	8.2	12.0	9.0	13.3	7.4	10.7
高1		15	9.8	13.9	11.7	15.8	7.8	12.0
高2		16	8.9	12.9	10.5	14.8	7.3	10.9
高3		17	9.1	13.8	10.6	15.1	8.0	12.1

全国: 令和元年度学校保健統計調査 青森: 令和元年度青森県学校保健調査

青森県の子供の肥満率は高い！
肥満は糖尿病、高血圧、脳卒中などの原因になる

次に青森県民の運動不足についてです。

小中学生の肥満傾向児の出現率を見ると、青森県は、小1から高3までの全ての区分で全国平均を上回っています。青森県の子どもの肥満率が高いということが分かります。

この高い肥満率は、糖尿病や高血圧、脳卒中などを引き起こす原因になります。（7）

8

運動不足

47都道府県各100人（男女比50：50，20歳代～60歳代各10人、合計4700人）を対象に、運動について調査したスコアランキング。

アンファア株式会社

40	神奈川県	38.83	2
40	岐阜県	38.83	43
43	秋田県	37.05	47
43	富山県	37.05	41
45	福井県	35.27	16
46	愛媛県	31.71	29
47	青森県	22.81	34

青森の運動スコアは全国最下位

このままでいいの？

そこで、47都道府県、各100人を対象に運動について調査したスコアランキングを見ると、青森県は全国で最下位になっており、先ほどの肥満率の高さは、やはり運動不足によるものだと思います。（8）

3. 青森県民はタバコ吸いすぎ！！ 9

喫煙率ランキング(2019年)

・男性		・女性	
1位	佐賀県 35.8%	1位	北海道 14.8%
2位	岩手県 34.8%	2位	青森県 11.2%
3位	青森県 34.4%	3位	福島県 10.5%
4位	秋田県 33.9%	4位	大阪府 10.4%
5位	福島県 33.8%	5位	千葉県 10.4%

国立がん研究センターがん情報サービス
 健康増進部成人喫煙率 より

3つ目は、青森県民はたばこを吸いすぎるとい問題です。

2019年の喫煙率ランキングでは、男性が全国で第3位、女性が第2位と、全国的に見て青森県民の喫煙率は高くなっています。(9)

4. 青森県民はお酒飲みすぎ！！ 10

飲酒率について

酒飲みが多い 都道府県ランキング【男性】		
順位	都道府県	飲酒を週4日以上 (年間200日以上) している人の割合(%)
1	秋田県	35.2
2	山形県	30.3
3	富山県	29.0
4	宮崎県	28.4
5	青森県	28.1

一般社団法人
 ストレスオフ・アライアンス

4つ目は、青森県民はお酒を飲みすぎているとい問題です。

酒飲みが多い都道府県ランキングでは、男性が全国第5位と上位に入っています。(10)

5. 青森県民は糖尿病多すぎ！！ 11

糖尿病による死亡率(対人口10万人に対する死亡率)

ベスト3		ワースト3	
1	神奈川 7.8人	1	青森 20.2人
2	愛知 7.9人	2	徳島 17.9人
3	東京 8.8人	3	香川 17.8人

全国平均は11.4人。青森県はワースト3の中でもずば抜けて高い！

糖尿病ネットワーク

5つ目は、糖尿病が多すぎるとい問題です。

人口10万人に対する糖尿病による死亡者数は、全国平均の11.4人に対し、青森県では20.2人とワースト1位です。(11)



以上のように青森県民は、健康に関する多くの問題を抱えています。

では、私たちはそれをどのように変えるべきなのでしょうか。

これらの健康課題を改善するためには、生活習慣の改善が必要です。

どう変える？

12

生活習慣の改善

- ①塩分摂取量を国が定める目標値に近づける。
- ②運動習慣を定着させる。
- ③喫煙率・飲酒率を下げる。

↓

県民の健康意識を高める。



①塩分摂取量を国が定める目標値に近づける、②運動習慣を定着させる、③喫煙率・飲酒率を下げる。そうして県民の健康意識を高めることで、健康課題を改善できると思います。(12)

13

提案 1

G-1グランプリの開催



私たちは、塩分過剰摂取の対策として、「G-1グランプリ」の開催を提案します。(13)

14

G-1グランプリとは？ 高校生による減塩料理コンテスト

G-1のGは減塩 (GENEN) のG！

G-1グランプリは
高校生ボランティアが運営

G-1グランプリとは、高校生による減塩料理コンテストのことです。

G-1のGは、減塩のGです。
また、G-1グランプリは、高校生ボランティアが運営します。(14)



15

〈概要〉

- ・塩分使用量 (2 g 未満) を設定
- ・青森県内の各高校 1 チームが創作料理を提案
- ・会場で料理販売 & 投票
- ・すべての料理はアプリで公開



G-1グランプリでは、料理中の塩分使用量を 1 人当たり 2 g 未満と設定し、青森県内の各高校 1 チームに創作料理を提案してもらいます。

会場では、実際に料理を調理販売し、来場した人に投票してもらいます。

また、提案してもらった全ての料理は、アプリで公開します。(15)

グランプリ決定方法についてです。

来場者に気に入った料理に投票してもらい、グランプリ 1 校、準グランプリ 2 校を決定します。

投票は、入場者が気に入った料理にアプリ「あおへる」から行ってもらいます。

会場の入り口で来場者にアプリダウンロードの方法を教えるサービスも行い、誰でも投票できるようにします。(16)

〈グランプリ決定方法〉


16

- ・来場者による投票により、グランプリ 1 校、準グランプリ 2 校を決定
- ・入場者が気に入った料理にアプリあおへる (後述) で投票
- ・会場入り口でアプリダウンロードの方法を教えるサービス (アプリ利用者も増える！)




17

〈年間計画〉



秋に始まり、1年を通して
グランプリを決定！
春と夏は各地域の祭りと
同時開催！



G-1グランプリは、1年を通してグランプリを決定していきます。


春と夏は人が多く集まる各地域の祭りと同時に開催し、多くの方にイベントに参加してもらいます。(17)

年間計画を細かく説明します。

まずは、秋、地区大会です。

青森県内の6地区で大会を行い、それぞれから代表2校を決定します。
会場は高校の体育館やグラウンドを借りて、会場費を削減します。(18)

18



秋 地区大会


青森県内の6地区から
代表2校を決定！
会場は高校（費用削減）

冬は会場では行わずリモートで行います。

秋に選抜された料理のレシピを「あおへる」というアプリで公開します。
そして、アプリ上で気に入った料理に投票や「いいね！」を付けてもらいます。
冬の間の投票結果は、春の大会での得点の一部となります。

会場に行く必要がないので、アプリがあれば誰でも参加することができます。(19)

19




冬 リモート開催

- ・秋に選抜された料理のレシピをあおへるで公開！
- ・アプリ上で気に入った料理に投票＆「いいね！」

アプリがあれば誰でも参加できる！



20



春 準決勝

地区大会で選ばれた12校から
6校を選出！
会場は青森、弘前、八戸等の
春祭り同時開催！

春の準決勝についてです。

地区大会で選ばれた12校から6校を選出します。県内の春祭りと同時に開催します。(20)



夏 決勝

21

グランプリ、準グランプリ決定！

会場はねぶた、ねぶた、三社大祭等の夏祭り会場で！

最後は夏、決勝です。準決勝で選ばれた6校からグランプリ、準グランプリを決定します。夏祭り会場で行います。(21)



グランプリ決定後は商品化!!

グランプリ作品をお弁当として販売
コンビニやスーパーとタイアップ

ほかに…

学食、社員食堂、温泉、老人ホーム
地元の飲食店、朝市などで
料理を提供！



22

グランプリに選ばれた料理は、コンビニやスーパーとタイアップしてお弁当として販売します。

他にも学食、社員食堂などの多くの場所でその料理を提供することで、たくさんの方に食べてもらえるようにします。(22)



〈宣伝方法〉

- ・ テレビ
- ・ ラジオ
- ・ チラシ
- ・ 新聞
- ・ アプリ
- ・ インスタグラム
- ・ ツイッター
- ・ フェイスブック



23

イベントの宣伝方法として、テレビ、ラジオでCMを流したり、新聞やチラシに掲載したりします。

また、若者に興味を持ってもらえよう、インスタグラムなどのSNSを活用して宣伝します。(23)

〈参加者への特典〉

- ①参加者全員にマスクをプレゼント
- ②アプリあおへるを見せると、
1つだけ割引価格で購入可！
- ③子どもには風船、お菓子、シール贈呈



24

このイベントにより多くの参加者を集めるため、来場者特典として、例えば、マスクを配布します。

また、アプリ「あおへる」を見せることで1つの料理が割引価格で購入できるというサービスを提供します。

さらに子どもの参加者に風船やお菓子、シールなどを差し上げます。(24)

〈効果持続のために〉

25



- ・ 毎年イベントを開催する
- ・ メディアに取り上げてもらう
- ・ 入賞作品を用いて料理教室開催
- ・ 参加者の意見をアプリできく



イベントの効果を持続させるために、毎年イベントを開催し、年中行事として定着させます。その際にメディアに取り上げてもらいたいと思います。

また、入選した料理の作り方を教える料理教室を開きます。

さらに、アプリ「あおへる」で参加者の意見を聞けるようにします。

(25)



〈すでに行われている類似イベント〉

26

大分県「うま塩プロジェクト」

目的…塩分摂取量のマイナス3g達成のため
内容…塩分控えめの食事＝「うま塩レシピ」を
家庭及び外食、中食へ普及していくもの

ここで、既に他県で行われている類似イベントを紹介します。

それは、大分県の「うま塩プロジェクト」というものです。(26)

大分県の塩分摂取量(1日あたり)

27

H24

H28

男性 11.0 g → 男性 10.4 g

女性 9.1 g → 女性 8.8 g

出典 「国民健康、栄養調査 (H24、H28)」

このイベントの開催後、塩分摂取量は男性が0.6g、女性が0.3g減少し、効果が見られました。(27)

G-1グランプリも人気イベントとして定着すれば、同じように青森県民の塩分摂取量を減らせると思います。

提案2

28

青森(あおもり)の
健康(HEALTH)を促進
病気が減る(へる)

あおへる

～青森の健康を促進し、病気を減らす～

続いて、「あおへる」というスマートフォンアプリの開発を提案します。

「あおへる」の名前の由来ですが、「あお」は青森県から、「へる」は英語のヘルスと、病気が減るからきています。(28)

アプリの機能①～からだ日記～

29

- 食べた料理名を入力することで、
一日の総カロリーを計算する。
⇒目標カロリー摂取量を提示することで食べすぎを防ぐ。
- 体温、体重、血圧を入力することで自分の体調を知る。
⇒体の異常に気付く。



アプリの機能②～からだグラフ～

30

- 体重の推移（折れ線グラフ）
⇒目標体重を設定し、自分の体重の変化を確認する。
- 血圧の推移（折れ線グラフ）
⇒測定し、アプリに記入することで血圧の正常値を保つ。
- 今日の栄養摂取量グラフ（棒グラフ）
⇒各栄養素の不足や過剰摂取を防ぐ。

アプリの機能③～健康レシピ～

31

- 健康的な献立、「だし活」メニューの無料公開
⇒作り方、材料、栄養値、ジャンル分け
- G-1グランプリに提案された全レシピの公開
⇒イベント参加率の向上



アプリの機能の1つ目は「からだ日記」です。

からだ日記は、毎日のカロリー、体温、体重、血圧を入力できます。食べた料理の名前を入力することで摂取したカロリーをアプリが計算します。

また、目標のカロリー摂取量を提示することで食べ過ぎを防ぐことができます。（29）

アプリの機能の2つ目は「からだグラフ」です。

この機能は、体重、血圧、栄養摂取量をアプリがグラフにする機能です。

「体重推移グラフ」は、自分の体重の変化を確認することができます。目標体重を設定することによって、利用者のモチベーションを高めることにもつながります。

「血圧推移グラフ」は、毎日、血圧を測って入力することにより、血圧の変化を折れ線グラフで示します。

「栄養摂取量グラフ」は、入力した食事メニューから各栄養素の摂取量を棒グラフで示し、各栄養素の不足や過剰摂取を防ぐことができます。（30）

アプリの機能の3つ目は「健康レシピ」です。

この機能では、まず、高校生が考えた健康的な献立や青森県の減塩推進事業である「だし活」のメニューの公開をしたいと思います。（31）

カロリーや栄養値も提示することで、摂取カロリーの調節やバランスの良い食事について考えられます。

さらに減塩したい人向け、脂質が気になる人向けなどのジャンルに分けることで、気になる健康状態に合わせて利用してもらえるのではないかと考えます。

また、G-1グランプリで提案された全レシピを公開します。前述のようにG-1グランプリは、アプリで投票します。レシピを公開し、実際に家で作ることができるようにすることで、投票がしやすくなるのではないかと考えました。

これによりG-1グランプリの参加者の増加が期待できると思います。

アプリの機能④～運動メニューの提示～

32

- 年齢や身体状態に合わせたオリジナル運動メニューの提示
⇒無理なく誰でも行えるように
- 提示した運動メニューを動画で解説
⇒音声で解説することで分かりやすく
- 県内の高校生からオリジナルエクササイズダンスを募集
⇒様々な人が楽しめる

アプリの機能⑤～G-1グランプリ～

33

- 公開されたレシピをアプリで投票
⇒アプリの利用者が増える。
- 会場でアプリを見せるとG-1メニュー割引
⇒アプリの利用者がさらに増える。
- G-1メニューの公開（カロリーや塩分量も表示）
コメントや「いいね」もできる。
⇒アプリの利用者がますます増える。



高校生主体のアプリ作成！

34

- アプリシステム作成
⇒工業科
- 健康レシピ作成（栄養バランスのとれた献立の提示）
⇒食物調理科
- 運動メニュー作成
（様々な人に合わせた運動メニューの提示）
⇒スポーツ科

- 統計、集計
（アプリの使用率調査、G-1グランプリの投票集計）
⇒商業科

- オリジナルエクササイズダンスの提案
⇒普通科、表現科



アプリの機能の4つ目は、「運動メニューの提示」です。

この機能では、例えば、座ったままや軽いステップからなど、年齢や身体状態に合わせて選び、無理なく行える様々な種類のものを提示したいと思います。

また、その運動メニューのうちのいくつかをピックアップして音声解説付きの動画を配信し、言葉では分かりにくかったところも詳しく見られるようにすることで正しい運動ができます。

さらに、エクササイズダンスを県内の高校生から募集することで、様々な人が楽しめ、運動習慣意識の向上にもつながるのではないかと考えました。
(32)

アプリの機能の5つ目は、「G-1グランプリとの連携」です。

G-1グランプリの投票をアプリで行うことで、アプリの利用者を増やすことが期待できます。

会場でアプリを提示することで、G-1メニューの価格を割引したり、G-1メニューのレシピやカロリー、塩分量を公開し、コメントや「いいね」もできるようにすることで、さらにアプリの利用者の増加につながります。
(33)

このアプリは、県内の高校生が主体となって作成します。

アプリシステムについては、工業科、栄養バランスのとれた健康レシピは食物調理科、様々な人に合わせた運動メニューはスポーツ科が担当します。
(34)

アプリの使用率調査やG-1グランプリの投票集計は商業科、オリジナルエクササイズダンスの作成は普通科、表現科が担当します。
(35)

まとめ

まとめに入ります。

G1グランプリで期待できる効果 37

塩分摂取量が減少⇒生活習慣が改善する

イベント開催⇒県民の健康意識が上がる

高校生の取り組み⇒家族も巻き込める

まず、G-1グランプリで期待できる効果として、「塩分摂取量が減少することで青森県民の生活習慣を改善できる」、「このイベントを開催することで県民の健康意識が上がる」、また、「高校生が取り組むことで、その家族も巻き込むことができる」ということが挙げられます。(37)



あおへるで期待できる効果 38

自分の体調を知ることができる。

健康な食事や適切な運動を促せる。

県内全高校生に加え、家族も利用
⇒働き盛り世代の健康増進！

次に「あおへる」で期待できる効果として、「自分の体調を知ることができる」、「健康な食事や適切な運動を促せる」、「県内の全高校生に加え、家族も利用することで働き盛り世代の健康増進につながる」ということが挙げられます。(38)



以上で八戸東高等学校の提案を終わります。

御清聴、ありがとうございました。

【質 疑（質問者：県議会議員、答弁者：青森県立八戸東高等学校）】

●^{おおさき}大崎 ^{みつあき}光明 議員（自由民主党）

（大崎議員）



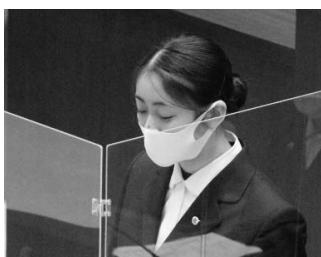
これまでも短命県返上ということで、全県民を挙げて一生懸命取り組もうと、生活習慣病の改善に取り組んでいるところでありますけれども、とりわけ、その中で食生活の改善ということに焦点を当て、次の時代を担っていただく高校生の皆さんと共有できたということ、本当に喜ばしいと感じました。ありがとうございます。

今からこういった課題を皆さんが私どもと共有して、次の時代に向けて取り組んでいただくということは、非常に大きな意義があると思います。この提案をされたG-1グランプリ、本当に重要な意味のあることだと思いますし、私も同感するところであります。

そこで、これを具体化するためには、運営をしっかりとやっていくということが大事だと思いますが、先ほど高校生ボランティアでというようなお話がございましたけども、このG-1グランプリの運営は、どこが担うことを想定しておられるのか、もしあれば教えていただきたいと思います。

また、地区大会なども各高校の会場を借りてとか、経費削減の部分も御提案されておられました。素晴らしいことだと思います。やはり、資金というのは、運営において必要なことだと思います。そこで、運営資金の調達方法についても考えていることがあれば教えていただきたいと思います。

（答弁）



G-1グランプリの運営については、G-1グランプリ運営委員会を立ち上げ、高校生が主体となって行っていこうと考えています。

具体的には、県内6地区に地区委員と事務局担当校を置き、地区大会の運営にあたります。

全県の大会は、各地区の委員からなるG-1グランプリ運営委員会と事務局校とで行います。もちろん、高校生だけでは実際には難しいこともありますので、各高校の先生方や県の方にお手伝いをお願いすることもあると思います。

次に運営資金の調達方法ですが、大手食品メーカーなどにメインスポンサーになっていただき、地元企業や商工会からも協賛金をいただきます。

また、イベント当日の入場料や売上金も運営資金に組み入れます。ただし、イベントが軌道に乗るまでは運営資金の不足も予想されるため、県による支援もお願いしたいと考えています。

●^{やまぐち}山口 ^{たきし}多喜二 議員（自由民主党）

（山口議員）



短命県返上というのは、青森県の重要課題であります。高校生の皆さんが一生懸命に研究をして、そして今日発表、素晴らしいアイデア満載の発表でございました。大変嬉しく思っています。

そこで質問ですが、G-1グランプリの準決勝や決勝を、各地の祭り会場で開催しようと考えた理由について、お伺いをいたします。

(答弁)



G-1グランプリの準決勝、決勝を各地の祭り会場で行うのは、より多くの人にイベントに参加してもらいたいという狙いからです。

新しく開催するイベントなので、宣伝をしても十分に認知されないかもしれませんが、祭りに来た多くの方にイベントに参加してもらうことで、G-1グランプリを広く人々に知ってもらうことにつながると思います。

また、イベントの参加者を増やすことが本来の目的である青森県民の健康意識向上にもつながると考えています。

● よしまた 吉俣 よう 洋 議員 (日本共産党)

(吉俣議員)



皆さん、本当に堂々とされていて素晴らしいなと思って聞かせていただきました。

食塩の摂取の問題は、3校全てが触れられたことで、そのことを皆さんは、イベントという形でいうと「G-1グランプリ」、アプリの開発ということでいうと「あおへる」という形で提案されたわけです。

私はアプリの方をお聞きしたいと思います。

このアプリはG-1グランプリというイベントにとって必要なことでもあるのですが、やっぱり健康増進のため、食塩の摂取を減らすために継続的に日常的に使っていただくということが大事だと思います。

そうすると、継続して利用する人を増やすことが必要となるというふうに思いますが、そのためにどのような取組を考えていらっしゃるのでしょうか。

(答弁)



アプリの内容を常に向上させ、新しい機能やコンテンツを用意することが大切だと考えています。

例えば、アプリで公開するレシピを、季節や行事に合わせたものにする。冬の運動メニューとして、室内でも安全にできるものを考える。オリジナルのエクササイズダンスを毎月更新するなど、利用する人が毎日見てみたいと思うようなものにしたいと思います。

また、日々の健康管理に役立たせてもらうためには、なるべく操作を簡単にし、入力の手間がかからないように工夫することも大切です。

さらにグラフなどのビジュアル面にも力を入れ、数値ではなく感覚として、自分の健康を意識できるようなアプリになれば、利用者を増やしていくことが可能だと思います。

【質 疑（質問者：青森県立八戸東高等学校、答弁者：県）】

（質問）



私たちは塩分摂取量を減らすため、G-1グランプリの開催を提案しましたが、青森県では塩分摂取量や喫煙率を減らすなど、青森県民の生活習慣の改善のために、どのような取組を行っているのでしょうか。

また、G-1グランプリのグランプリ作品は、コンビニ等での商品化を目指していますが、県産食材等の商品化に向け、青森県ではどのような取組を行っているのでしょうか。

●健康福祉部 がん・生活習慣病対策課

（がん・生活習慣病対策課長）



県では、平均寿命と健康寿命の延伸には、県民一人ひとりのヘルスリテラシー、これは健康情報や医療情報を適切に利用し活用する力のことですが、このヘルスリテラシーの向上が必要だと考え、様々な取組を進めています。

先ほど、皆さんからも「健康課題の解決には、県民の健康意識を高めることが必要」と重要な気づきが発表されたと思っています。

減塩対策では、食品に記載されている栄養成分表示を理解して、減塩食品などの選択ができるよう、中学校保護者向けリーフレットの作成や、保育所の調理員を対象とした研修会の開催など、子どもの頃から塩分摂取量を少なくする取組を行ってきました。

また、喫煙対策では、たばこの健康への影響などについて啓発する研修会や、たばこをやめたい人のために県のホームページで禁煙治療を行う医療機関の紹介などを行っています。

それに加えて、たばこの煙のない環境づくりを進めるために、施設内禁煙の事業所や飲食店などを「空気クリーン施設」として認証する事業を行っています。

その他、県のテレビ広報番組や全世帯に配布している県広報誌、ユーチューブのほか、知事をトップに県職員で構成する啓発チームによるキャンペーンなど、様々な媒体、手法を活用し、運動・食生活などに関する健康情報や、がん・糖尿病などの病気に関する正しい知識を情報発信しています。

●農林水産部 総合販売戦略課

（総合販売戦略課長）



県では、県産食材等の商品化に向け、関係機関と連携して、農林漁業者等を対象とした食品ビジネスに関する相談会を開催し、加工の方法や衛生管理、商品PRなど、商品開発に関するあらゆる相談に専門知識を有するスタッフが助言・指導を行っています。

また、先般のスライドにもありました、だしを使っておいしく減塩する「だし活」については、だし商品「できるだし」シリーズに加えまして、スーパーや総菜製造業者等の食品製造者を対象に、県産素材を活用した塩分控えめ商品の開発に取り組んでおり、今年度は、本年1月末までで、おにぎりやラーメンなど、8商品が発売されてござ

います。

さらに、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの民間事業者と大学や高校等の連携を支援してございまして、株式会社イトーヨーカ堂様と青森中央短期大学が県産食材をふんだんに使用した少量多品目のお弁当を商品化し、昨年9月に県内のイトーヨーカドーで開催されました「青森県フェア」で販売したほか、株式会社ローソンと県立三本木農業高校がりんごの食感にこだわったパンを商品化し、10月に東北エリア全店舗のローソン等で販売したところでございます。

おわりに

今年度は、初めて県議会本会議場において、また、新型コロナウイルス感染症対策に努めながらの実施となり、開催前はできる限りの準備を行いつつも、「スムーズに進行できるだろうか。何か手落ちは無いただろうか。」と、少し不安もありましたが、生徒の皆さんは、県議会議員や県職員を前に堂々と、そしてしっかりと発表され、素晴らしい模擬議会となりました。皆さん、御協力いただき大変ありがとうございました。